

適塾かわら版

巻八

大阪大学適塾記念センターとは

2011年、大阪大学創立80周年を機に適塾記念センターが設立されました。適塾運営・大阪学・オランダ学の三部門を擁し、適塾建物および歴史資料の維持管理、近世以降の大阪の学問・文化や日蘭関係史の研究を行うほか、阪大の源流の一つである適塾を顕彰するため、見学会・展覧会・講演会等の様々な社会教育事業を展開しています。

何ぞや？



【令和五年度のイベント】

◎適塾特別展示「シリーズ生誕200年記念」その参

村上代三郎（於適塾・5/30〜6/11）

洪庵が認めた学識を引っかけ、江戸の伊東玄朴に学び、砲術家の江川坦庵の食客となった村上代三郎は、幕府講武所師範に招へいされました。しかし眼病を患って帰郷し、家塾での教育・医業に進進しました。北播磨の山村に埋もれた才能の生涯に、適塾記念センターや村上家に伝えた資料から、焦点を当てました。



◎適塾講座「パンデミックをジェンダーの視点から考える」Diversity & Inclusion

（於中之島センター）

小川寿美子（名桜大）
「格差の起源」における感染症と男女平等に関する解釈（9/29）
山本太郎（長崎大）
「感染症と文明」共生への道（10/27）
パオラ・カヴァリエレ（人）
「パンデミックがもたらしたイタリア人の女性のアクティブエイジング概念の限界」（11/10）



覧

- 適塾関係資料画像データベース
<https://www.archive.tekijuku.osaka-u.ac.jp>
- 公式 Facebook
<https://www.facebook.com/TekijukuCommemorationCenter/>
- 図録『新版 緒方洪庵と適塾』
定価 900円+税
購入・注文は適塾窓口、全国の書店、アマゾンにて

適塾記念会 入会のスゝメ

適塾記念会は緒方洪庵・適塾およびその関係者の業績を顕彰し、大阪の学問・文化の伝統を発信することを目的に、1952年に創設されました。また適塾建物や適塾関係資料等の文化財保護活動にも取り組んでいます。適塾記念会に入会し、これらの活動にご支援・ご協力をお願いします。



会費

普通会員	年間1口	2,000円
賛助会員	年間1口	10,000円

いずれも複数年・複数口での申し込み可。
普通会員5年間（1万円）がおスゝメ！

会員特典

- 特典① 適塾の参観料がいつでも無料に！
 - 特典② 適塾見学会（年2回、前ページ参照）の無料参加が可能に！
 - 特典③ 会誌『適塾』（年刊）を無料でお届け（ご希望のバックナンバーも）！投稿資格もあり！
 - 特典④ 『大阪大学適塾記念センター所蔵 適塾関係資料目録』を希望者に無償頒布！
 - 特典⑤ 適塾で販売する図録『新版 緒方洪庵と適塾』絵葉書が1割引きに！
 - 特典⑥ イベントの案内を随時お届け！
- ※詳細については大阪大学適塾記念センターHPをご覧ください。



大阪大学適塾記念センター ニュースレター「適塾かわら版」巻八
編集・発行：大阪大学適塾記念センター デザイン・印刷：cocotier
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-13 大阪大学会館内 電話 06-6850-5016
<http://www.tekijuku.osaka-u.ac.jp> 2024年7月1日発行

適塾人物かぐみ

其ノ八 大村益次郎

おむら ますじろう
 生没 文政八年(明治二年)1825(1869)
 出身 周防国吉敷郡鏝銭司村(山口県山口市鏝銭司)
 業績 「兵家須知戦闘術門」(1864)、「朝廷之兵制永敏愚按」(1869)

長州藩の村医者の家に生まれ、はじめは村田良庵(のち蔵六)を名乗り、梅田幽斎・広瀬淡菟・緒方洪庵に学んだ。適塾退塾後は宇和島藩、幕府(蕃書調所・講武所)、地元の長州藩に相次ぎ出仕し、蘭学教育や軍制改革に携わった。また江戸で私塾・鳩居堂を開くなど、後進の育成にも努めた。

慶応二年(一八六六)の第二次長州戦争で石州口軍事参謀として勝利した。これ以後、政局は翌年の大政奉還、王政復古のクーデターへと動き、戊辰戦争へと突入する。江戸城明け渡しの後、益次郎は新政府軍を指揮して上野の彰義隊を鎮圧、東北戦争・箱館戦争で旧幕府軍を掃討した。その功により兵部大輔に任じられ、近代兵制改革を推進した。

しかし明治二年(一八六九)、京都で襲われ深い刀傷を負った。大阪府医学学校病院のポードインと緒方惟準(洪庵嗣子)の治療もむなし、志半ばで世を去った。切断された益次郎の右脚は遺志により、龍海寺(大阪・天満)の洪庵墓所そばに埋葬された。益次郎の構想のうち、大阪を日本の軍事拠点とすることは叶わなかったが、徴兵制は実現した。

「大坂八所謂海陸四達ノ要地ニシテ皇国ノ中央ニ位ス。四方ノ変ニ応ジ易シ。故ニ軍務ノ根本タル学校等ヲ立ル、此ノ地ヲ以最上トス。」
 (故大村大輔軍務前途ノ大綱 1869)

適塾見どころ

其ノ八 教室



圧倒的な講義!

適塾の基本は自学自習で、塾中の洋書を読み尽くした最上等の塾生が、たまに洪庵の講義を聞くぐらいでした。聴講した福沢諭吉は、緻密にして大胆な講義に「実に蘭学界の一大家」と感銘する一方で、自らの未熟さを痛感したそうです。

感懐ある町医者!

洪庵の日常は、昼間は医療活動に従事し、この部屋で診療・手術を行っていました。洪庵は患者に対して、身分や貧富に関係なく、分け隔てなく接しました。しかし威厳がありすぎるがゆえ、患者は怖がって、進んで病状を話すことができなかったそうです。

諭吉「校で」「一口適塾生」に!

塾生の入門日・氏名が記された適塾の門人帳「適々齋塾 姓名録」が現存しています。この「姓名録」を模して、「一口適塾生」の芳名帳を教室に設置します。一万円以上の寄附者は、「一口適塾生」として署名することができます。適塾を訪れる楽しみが増えるはず!

適塾参観案内

- 【最寄り駅】京阪淀屋橋駅・北浜駅、大阪メトロ淀屋橋駅下車 徒歩5分
- 【開館時間】午前10時～午後4時
- 【休館日】月曜日(国民の祝日は開館) 国民の祝日の翌日(土・日・祝は開館) 年末年始(12月28日～1月4日)
- 【参観料】一般 270円 高校・大学生等 140円 中学生以下 無料 ※適塾記念会会員および阪大生は無料! 住所: 大阪市中央区北浜3丁目3-8 電話: 06-6231-1970

荷物を預けて快適に見学できます。



大阪大学未来基金「適塾記念事業」より1口1万円以上をご寄付ください。後日、「一口適塾生」のご案内をいたします。 <https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp/project/tekijuku>

令和五年夏の適塾見学会開催決定

夏季見学会 (北浜周辺) 「適塾とその周辺をたずねる」

「適塾かわら版」巻一参照

参加者の声

短時間ですが大阪の成り立ちと経済面を知ることが出来ました。もっと深く知る必要があると感じました。(夏季)

適塾見学会は毎年夏季・秋季、適塾記念会会員を対象に開催されています。ここでは参加出来なかった会員および非会員の方々にも自由に散策できるように見学会道程の概略を再現しました。

秋季見学会 (楠葉) 「古代～近代の楠葉」

1 交野天神社

延暦4年(785)、桓武天皇が執り行った天神祭祀を創始とする。中世の楠葉郷住人が信仰し、応永9年(1402)に建立した本殿は国の重要文化財に指定されている。境内には府史跡「継体天皇樟葉宮 伝承地」があるが、継体が即位した場所であるかは不明。枚方市楠葉丘2

4 楠葉台場史跡公園

楠葉台場は京都守護職の松平容保(会津藩主)の建白に基づき、勝海舟が設計、慶応元年(1865)に完成した砲台。名目は淀川を航行する外国船からの京都防衛とされたが、実態は尊皇攘夷派対策にあった。2007年からの発掘調査で遺構が確認され、国史跡に指定された。枚方市楠葉中之芝2

2 楠葉村町組の町並・京街道

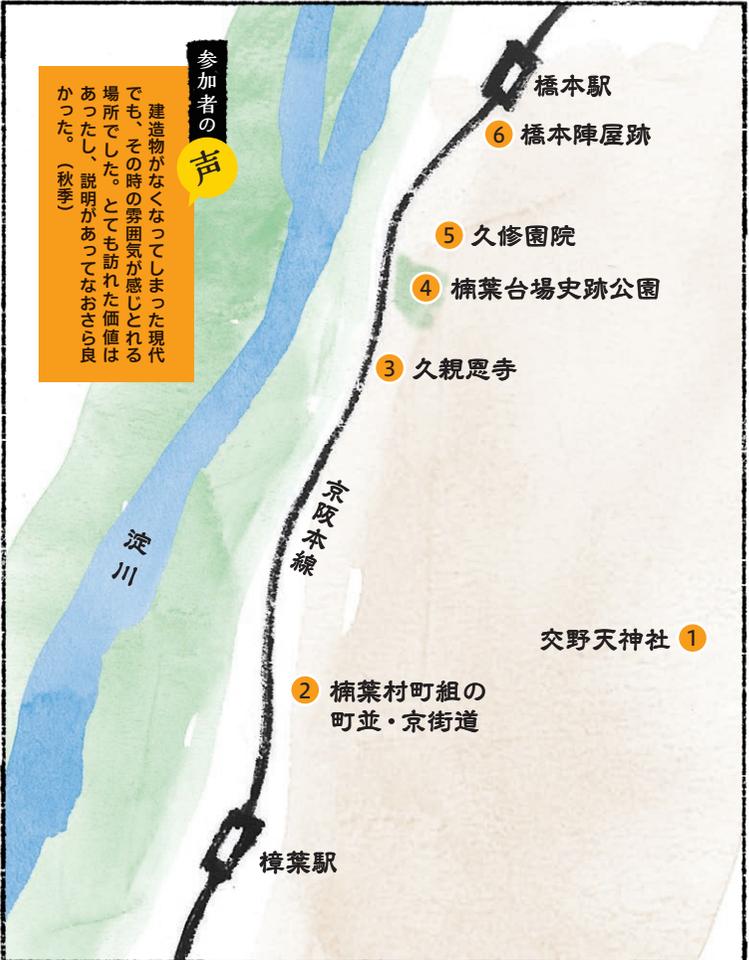
古代には山陽道の楠葉駅、摂関家領の楠葉牧が置かれた交通の要衝。中世には石清水八幡宮の楠葉神人により地域拠点を発展させたが、戦国期の戦乱でその座を枚方に譲った。文禄5年(1596)に豊臣秀吉が淀川兩岸に築いた堤防の左岸が京街道に利用され、町内を通った。枚方市町楠葉

3 久親恩寺

開創年不詳の曹洞宗寺院。本尊の薬師如来は行基作と伝えられ、楠木正儀(正成子)家臣・楠葉道心の孝行話が残る。近世には貝原益軒や秋藩主が訪れる大寺であった。楠葉台場の工事担当役人の会議場所となったが、鳥羽・伏見の戦いで灰燼に帰した。枚方市楠葉中之芝1

6 橋本陣屋跡

橋本の地名は行基が淀川に架けた山崎橋に由来する。橋本陣屋は万延元年(1860)に完成。八幡・山崎周辺の警備本営となった。鳥羽・伏見の戦いでは旧幕府軍が守兵を配置したが、新政政府軍に寝返った津藩より対岸から砲撃を受け、旧幕府軍は大坂へ退去した。八幡市橋本堂ヶ原



参加者の声

建造物がなくなってしまう現代でも、その時の雰囲気を感じられる場所でした。とても訪れた価値はあったし、説明があつてなおさら良かった。(秋季)